

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人を尊重し安心と信頼のもとで生活していただけることを第一とした理念を事業所としてつくりあげている。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護をしていく上で理念を基本とした介護が最も大事であり、理念にそぐわない対応があった場合は職員間でお互い注意をし日々取り組んでいる。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族には折に触れ伝えられていると思うが、地域の人々には、まだ理解してもらえないよう取り組みが不十分であると思うが、理解していただけるようになった。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームは地域の方が作っている沢山の畑に囲まれ、中でも菊の花を作っている方が多いため花をいただく機会が多くホームに飾ってある。ホームでも野菜を作っているのでおすそ分けをしたりする日常的なお付き合いは出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子供達がボランティアできてくれることもあり地域の交流はあるが地域の行事に利用者様と一緒に参加するまでには至っていない。		地域の行事に参加できる利用者様が現時点では厳しい現状であるが今後は積極的に参加できるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		事業所の理念や取り組み内容を話し合い、地域の理解と支援を得るよう取り組んでいきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		質の向上に取り組んでいくために、市町村の理解や支援などが必要であり今後直面している課題解決にむけ市町村と行き来する機会を作っていくよう取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>		勉強会を持ち、全職員が理解を図り、虐待の徹底防止に努めるよう取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し事業所で出来ること出来ないことを明確に説明し、同意を得、御家族からは疑問点を引き出し重度化や看取りについての対応など詳しく説明し同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者によっては不満などを言いやすい職員がおり、その職員を通じ伝わってくるが多く、その際はすぐに利用者にとって何が一番良い対応なのかを全職員で話し合い改善している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず大きな変化がある、ないに限らず、暮らしぶりや健康状態など報告しホーム便りなども送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族はまめに面会にきてくれる方が多く職員とは話す機会も多く顔の見える関係が作りやすい反面、言いにくい状況もあると思う。その場合は代表者に言うことが多く代表者から伝えてもらっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け要望、意見など聞くように心掛けているが、不満や苦情は言い難い部分も多く、把握仕切れていないことがあると思う。利用者の受け入れや職員の交代等の話し合いは出来ている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕を持った人員の確保は出来ている。職員の急な休みには対応できる人員の確保ができています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>新ユニットの設立で職員間で異動を行っていたが、利用者・家族とも馴染みの職員が対応することが信頼関係につながるので各ユニットの職員を固定化することに早急に取り組んでいきたい。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>質の向上にむけ各職員が段階的に力をつけていけるような計画が必要。研修を位置づけていく運営面での工夫が必要である。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしているよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>他グループホームなどとの交流や親睦の場を作り少しでも気分転換出来るよう取り組んでいきたい。昼休みの休憩時間の確保など。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>運営者も頻繁に現場に来ており利用者や職員と過ごしたり現場で起きている状況や変化、職員の努力などは把握できている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で本人の生活状況を把握しまずは職員が安心して本人から受け入れてもらえるよう信頼関係を作ることに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立って話を聞き家族の思いを受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として、出来る限りの対応に努めている。出来ないことは、事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他のサービス機関につなげている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは事業所を見学してもらうことから始めている。やむを得ずすぐに利用になった場合には不安を解消するためにもご家族や関わっていた方に頻りにきていただくようお願いし安心していただけるよう努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活していく中で利用者からいたわり励ましていただく場面も多くあり、学ぶことも沢山ある。職員は一人一人の思いを共感し理解できている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には御家族が利用者への面会のみで終わることなく職員と家族には話し合いの時間をもって短時間でも職員の思いなどきめ細かく伝えることで、共に支援していくという関係が出来てきた。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族へ本人の思いや状況を伝え、外に出て食事をしたり一緒に買い物に連れて行ってくれる家族が多くなった。(特に遠方の方)本人と家族のつながりを深めていけるより良い関係が出来るよう支援に努めている。		本人がホームで生活していても常に家族に見守られているという実感があるよう全利用者に取り組んでいきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・親しかった友人等頻繁に面会に来てくれる方が多く、本人はとても喜ばれる。続行していただけるよう支援をお願いし協力していただいている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自立されている方の中に認知が重い方や介護度の重い方などに手助けしてくれる場面がたくさんあり、一人一人の個性をうまく活かす配慮に努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず他施設や入院など契約を終了した利用者でも面会に行ったり家族からの相談を受けることもある。サービス利用期間のみの関りで終わることのないよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけや、発する言葉や行動を注意深く観察し、一人一人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族にその人の人生の今までを聞き、本人本位で考えられるよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に家族等から状況を聞いて大まかな暮らしぶりなどを把握しつつ、本人からも(心身の安定している時に、)それまでの生活歴やなじみの暮らし方、嗜好なども聞き、その人らしく生活を送れるよう環境作りに努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のかかわりの中、利用者一人一人の生活リズムを理解しようと努めている。食事や睡眠などリズムが狂ってしまった時はセンター方式の24時間シートなどを利用して、みんなで把握しやすい形にまとめ、さらに大きなサイクル(1週間、1ヶ月、1年と)でも考え、心身の状況把握、どうしたらその人らしくすごせるか、関わり方を考えている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聞き、介護計画作成に取り入れている。また実現可能な計画となるようケアカンファレンスで課題となる項目をスタッフ間で話しあっている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月に1度)に介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、職員が記録する利用者の状況変化や現況、事故報告書、ヒヤリハットメモなど活用し目に見えている変化、見えにくい変化にも配慮しながら、現状に即した計画の作成に努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	利用者さまの個性を尊重し、興味関心があれば今後は図書館やその他文化施設など利用したり、地域の行事に参加する機会を持ちたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	○	他の介護事業所、サービス事業所なども連絡を取りいろいろな情報交換、サービスの活用を試みたい。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	以前に比べ、地域包括支援センターを身近に感じることは出来たが、制度の現状は把握にとどまっている。積極的に活用できるようになりたい。また年内には1度運営推進会議を開催したい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後は重症化に伴う意思確認書作成、家族への説明、意思確認を行うことが必要</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今年の6月に入居者を一人看取った。その期間、職員から身体症状や介護方法(嚥下困難や褥瘡)に関する不安の訴えや質問が多数出た。住み慣れたホームでチームとして支えていくにはもう少し経験と知識の習得が必要と実感した。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>経営者が窓口となり、家族と住み替え時に十分話し合う時間を持って気持ちを聞きだしフォローしている。そのため住み替え後の生活なども家族が報告してくれることが多い。住み替えに(入院という期間があり)介護計画の申し送りは現状では行っていない。</p>
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>今後も全職員で互いの意識向上を図りつつ、利用者一人一人の生活リズムを大切にし、プライバシー確保について常に心がけたい。また全職員で個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底を図りたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>高齢や認知症の進行に伴い判断力や希望を表出する力が低下していく中で利用者本人が決める力や希望や願いを言葉で意思表示が出来ない場合であっても表情や身体全身の反応など注意深く見極め、日常の中で利用者本人が選択しやすい場面を支援していきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>利用者一人一人のペースを大切にし、日々の生活の中で職員同士が工夫しながら、利用者のペースに沿って「その日」を一緒に送れるよう個別の支援をしていきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>職員の価値観や一方的な支援をするのではなく、利用者本人の好みや本人主体で身だしなみを整えられるよう利用者が持っている力に応じた支援を心掛けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>男性利用者には畑で栽培している季節の野菜の収穫を、女性利用者には食事の準備や後片付けなどを本人の意思で「やってみよう」という気持ちになれるような場面造りを支援している。また利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し利用者と職員が同じ献立を同じ食卓を囲んで楽しく食べれる「食」を通じたコミュニケーションを今後も図っていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>利用者本人の嗜好品を職員が把握・理解し周囲の状況や本人の様子や時間を見ながら、馴染みの嗜好品を楽しめるよう今後も支援していきたい。また本人以外の利用者に迷惑がかからないよう十分な配慮もしていきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>トイレでの排泄を可能にするために、利用者本人の生活リズムに添った個別の支援を行い利用者一人一人のサインを見逃さぬよう全職員が把握・理解しさりげないトイレ誘導を試みる。また失敗してしまった時は本人が傷つかないよう言葉かけし、手早く周囲に気付かれぬよう努めたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>羞恥心・恐怖心・負担感を持つ利用者には個別の言葉掛けや対応を試み楽しい入浴が出来る様配慮することで利用者本人が入浴後に「気持ちよかった」「さっぱりした」などといった満足感が得られるよう支援していきたい。また異性職員が援助を行う場合も個々の利用者への配慮を忘れぬよう努めたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>就寝時眠れぬ利用者には時に添い寝をしたり居室から和室に移動して横になってももらったり、飲み物等を飲みながらコミュニケーションを図る等して利用者本人が安心して眠れるよう配慮している。</p>
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>今後も利用者一人一人の力を発揮出来る様日々のコミュニケーションを大切に一日一日を楽しんで生活して頂けるよう個別の支援を利用者の方と相談しながら援助していきたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知レベルによっては混乱を招き、難しい利用者もいるので現在は一部の利用者のみではあるが、一緒に買い物に行って楽しい時間を過ごしている。	○	今後は家族と相談しながら利用者本人一人一人の力や希望に合わせて金銭管理の支援を行ってきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域理美容店へ出掛けたり、好きなおやつを買いに行ったり、またホーム付近への散歩などの支援をしている。また家族訪問時希望により家族と外出して楽しい時間を過ごしている。	○	今後も出来る限り利用者一人一人の願いを叶えられるよう家族等と相談し外出支援に取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年お弁当等を持参して、大洗アクアワールドへ利用者全員で出掛けました。この際家族参加を呼びかけませんでした。	○	ホーム便りを活用し家族に参加を呼びかけました。秋に日帰りの小旅行を予定しています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できる体制ではあるが家族等の定期的な訪問があり、特に利用者本人からの希望が聞かれない為支援できていない。	○	今後年賀状や暑中見舞い等、季節の挨拶状等を出す支援を行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の定期的訪問や知人友人の訪問があり、利用者は楽しい時間を過ごしている。また家族面会時には必ず近況を報告し事前に判れば食事を提供し利用者と一緒に食べてもらっている。希望があれば宿泊も可能である。		昼夜問わず家族や友人知人が訪問出来る様対応している。また他の利用者にも気兼ねなく過ごせるよう和室を使用して家族団欒の一時を過ごせるよう心掛けている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、全ての職員が認識し介護支援にあたっている。	○	カンファレンスや日々の申し送り等で、その日その日のケアを振り返りながら身体拘束が行われていないか点検し、また職員間での共有認識を図っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>利用者が外出しそうな様子を見せた時等は、言葉を掛け、一緒についていく等、安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>職員は、利用者と同じ空間で記録等の事務を行いながら、利用者全員の状況を把握するよう、努めている。また、夜間は数時間毎に利用者の状況を確認すると共に、覚醒時にはすぐに対応出来るよう工夫している。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>職員間で十分に話し合い、検討しながら、管理が過剰にならないよう、注意したい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>日々のヒヤリハットを記録し、職員間で話し合い、共有認識を図っている。また、事故が発生した場合は、速やかに対応し、事故報告書を作成、事故原因の今後の予防対策について検討すると共に、家族への説明と報告を行っている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>全ての職員が応急手当が出来るよう、勉強会（実技を含む）を実施したいと思っている。また、夜勤時の緊急対応についてはマニュアルを参照し、対応できるよう努めたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>消防署の協力を得て、定期的な避難訓練等を行っていききたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランを元に家族と相談し、問題が生じたときは、その都度家族に報告し対応している。	○	今後もケアプランを元に家族と相談し、一人一人に予測されるリスクを話し合い状況変化があれば、その都度家族に報告、相談し対応していきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の食事、水分摂取量表を作成し、毎日の健康管理が出来るよう職員が把握している。	○	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組む、変化等気付いたことがあれば、すぐに管理者等に報告すると共に職員間で共有し対応にあたるよう努めたい。また、状況によっては医療受診出来るよう、バイタルチェックや変化の記録をつけている。
74 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は夜勤者が、一日分を準備し、日中は台所の上棚に保管している。服薬する際は、個別の容器に薬を入れ、確認しながら服薬の支援をしている。	○	薬の処方や容量や変更になったり、本人の状態変化が見られるときは記録をとり、協力医療機関やケアマネージャー(看護師)と連携を図れるよう努めている。
75 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表で、個別の排泄パターンを把握している。また、便秘薬服用者には、職員が予防管理している。日中は飲み水を多めに摂る工夫を行っている。	○	今後は出来るだけ自然排便出来るよう、散歩、家事活動等、身体を動かす機会を現在より設けていきたいと思っている。
76 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後言葉掛けをし、うがいや歯磨きを促し、出来ない人には介助をしている。また、義歯使用者については、夜間預かり消毒をしている。	○	口腔ケアの重要性を、職員が理解し、また、口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じた介助を行っていききたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分摂取量を作成、活用し、一日の水分や食事摂取量を、おおよそ把握できるようにしている。又、食欲不振の日が続いたり、水分が取れない場合は、日誌に記録し、職員間で把握し、食べられる物を提供している。	○	今後は定期的に、管理栄養士の専門的アドバイスをもらえるよう、協力機関を得たい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作成し、職員全員に渡してある。又、リビングに置いて、いつでも見られるようにしてある。手指については、手洗い後消毒を励行。物品等は週一の割合で消毒を行っている。	○	利用者及び家族に同意をもらい、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。事業所内で起こりえる感染症については情報収集を行い、取り決めをつくり、早期発見・早期対応に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	曜日を決めて消毒を行っている。調理器具と布巾等の消毒は随時消毒を行っている。又、まな板は食品ごとに4つを使い分け、アルコールスプレーも活用している。食材に関しては、新鮮で安全な使用と管理に努めている。	○	今後も、より徹底した食材の管理と、調理器具・台所水周りの清潔、衛生保持に努めていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には、花壇やプランター等置き、四季折々の草花を裏山から採取して飾ったり、自分たちで育てた花を飾ったりして、季節感を取り入れている。	○	利用者と花壇を作る等、利用者や家族、又近隣の人たちにとって、安心して出入りが出来る様今後も続けていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の一人一人が好む場所で過ごせるよう、椅子やソファを置いて、寛ぎの場所の提供に努めている。又、季節の花を生けたりするなど、和みの場を提供している。	○	今後も利用者にとって、居心地の良い空間作りを怠ることなくしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、冬は和室にこたつをかけ、寛ぎやすいようにしてある。ウッドデッキには椅子とテーブルを置いて、外気にゆっくり触れる空間を整えている。	○	今後も、共用空間において、利用者一人一人が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>家族の用意した新品の家具や身の回りの品物ばかりの利用者もいるため、今後は利用者の馴染みの物など用意できるよう配慮していきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>常に換気に努めている。また、消臭剤として竹炭等を置く工夫をしている。トイレは、換気扇と便器には脱臭機能を兼ね備えた物を使い、場合によっては消臭剤を使っている。</p>
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>今後も常に利用者の状態に合わせて、手すりや浴室・トイレ・廊下など、居住環境が適しているか見直し、安全確保と自立への配慮を援助していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>今後、利用者の状態や状況が変わり、新たな混乱や失敗が生じた時は、その都度職員全員で話し合い本人の状況に合わせた環境整備に努めていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>今後も利用者一人ひとりが外へ出て楽しめるよう、環境を整えると共に、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような援助に努めていきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「その人らしさを大切にできているか」と職員間で日常的に話し合い、共有し、理念に合わない対応が職員間であった時はお互いに注意出来る関係が目標である。
- ・御家族・友人・親戚等の面会が頻繁にあり、利用者への思いを日々感じて介護に従事できること。
- ・代表宅で取れた季節の野菜や米・職員による手作り味噌等を提供している。